

せとうち美術館ネットワーク 特別講演会 2016



美術館教育へのアプローチ  
～ワークショップほかHands-On, VTS, AL…手法を探る～  
2016.11.27

前田ちま子

# 項目

- 1 ニューヨーク近代美術館 (MoMA=Museum of Modern Art)  
ビクトル・ダミコ：ワークショップ Workshop
- 2 対話型鑑賞法 VTS = Visual Thinking Strategies  
ニューヨーク近代美術館
- 3 こども博物館：ハンズオン Hands-on  
Interactive Approach: Hands-on + Minds-on
- 4 こどもの城：ワークショップ=展示・体験・制作
- 5 博学連携：初めて出会う作品への興味と関心
  - ・博物館、美術館、児童館、回想法センターなど他機関の交流
  - ・雑録的観察眼+動的鑑賞学習
- 6 アクティブ・ラーニング：Active Learning
  - ・ワークショップの企画
  - ・英語による美術の学習および美術による英語の学習方法  
ーワークショップ環境における協同学習の視点からー

## 2 対話型鑑賞法 VTS

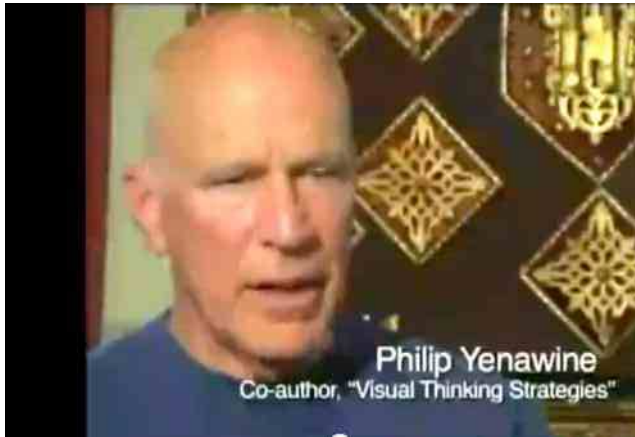
= Visual Thinking Strategies

フィリップ・ヤノウィン

アビゲイル・ハウゼン

## Art Awareness

### VTS: Visual Thinking Strategies



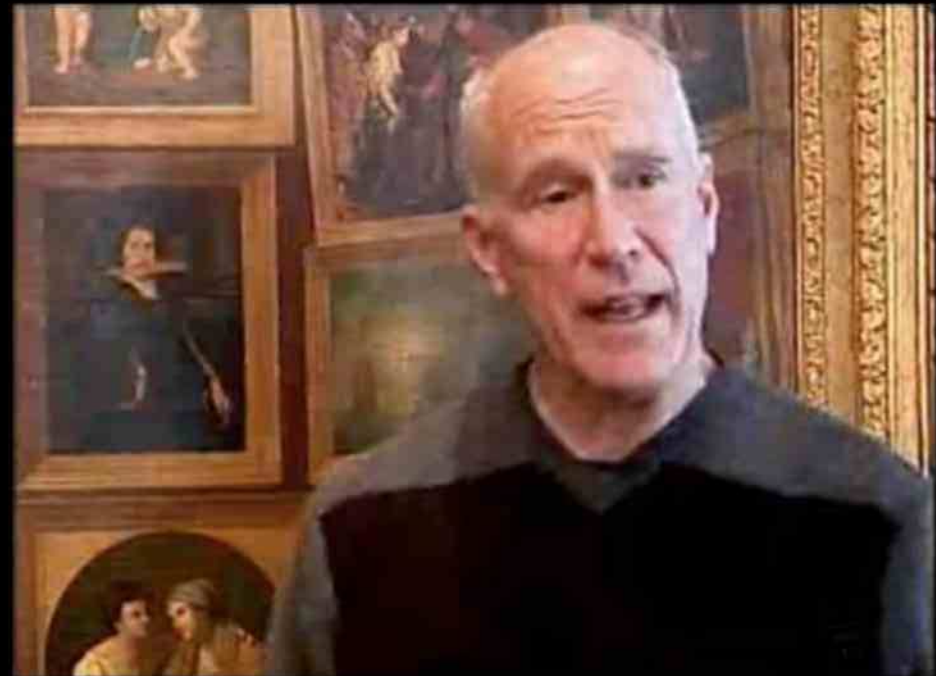
### フィリップ・ヤノウイン

元ニューヨーク近代美術館（MoMA）教育部部長、  
NPO法人 Visual Understanding in Education(VUE)創  
設者・ディレクター

メトロポリタン美術館やグッゲンハイム美術館をはじめとする、数多くのアメリカの美術館の教育プログラムの顧問、全米芸術基金の委員や財団およびアメリカ州政府関連機関の顧問を務める。その活動は、アメリカ美術教育協会から功労賞やニューヨーク州から州知事賞を受賞するなど、多くの文化機関から高い評価を受けている。現在も、世界各国でのレクチャーおよびワークショップを行なっている。MoMA教育部長であった1980年代、アートを通じ鑑賞者・学習者の「観察力」「批判的思考力」「コミュニケーション力」を育成する教育カリキュラムの開発を主導。同カリキュラムは、ヤノウインが創設したNPO法人VUEにて研究展開されているヴィジュアル・シンキング・ストラテジー（VTS）に引き継がれ、現在に至る。

# What is Visual Thinking Strategies (VTS)?

VTS was co-created by  
Abigail Housen, a cognitive psychologist and  
Philip Yenawine, a museum educator



アビゲイル・ハウゼンは美的感受性の発達を5つの段階に分類している(Abigail Housen,1992,2002)。

第1段階は「説明の段階」(Accountive Stage)

第2段階は「構成の段階」(Constructive Stage)

第3段階「分類の段階」(Classifying Stage)

第4段階「解釈の段階」(Interpretive Stage)

第5段階「再創造の段階」(Re-creative Stage)

ハウゼンによれば多くの鑑賞者は、第1段階から第2段階に留まっており、高度な美術鑑賞ができていないという。

# Visual Thinking Strategies (VTS) 『視覚的思考法』

## 美的発達— 5段階

### 第1段階「物語の段階」 (Accountive Stage)

- 鑑賞者は物語の語り手である。美術作品について具体的に観察することは自分の感覚や記憶、個人的な連想を使って、物語を紡いでいく。自分が知っていることと好きなことをベースに判断をする。鑑賞者は自分の感情でコメントを彩り、美術作品に入り込み、物語の展開の一部になろうとする。

### 第2段階「構築の段階」 (Constructive Stage)

- 鑑賞者は自身の知覚、自然界についての知識、社会的及び道徳的価値観、一般的な世界観といった最も論理的で受け入れやすい手段を使い、芸術作品を見るための枠組みを構築する。もし作品が予想できないもの、明らかに技と技術がない工芸作品、懸命に仕上げられていないもの、機能がなく有用でないもの、あるいは主題が適切でない場合、鑑賞者はそれらを「変なもの」とし、何かが欠如しているか価値がないと判断する。しばしば現実的であるという感覚が価値を決定する標準に充てられる。作品によって気持ちが沈みがちになるようだと、鑑賞者は美術作品から遠ざかりはじめる。

### 第3段階「分類の段階」 (Classifying Stage)

- 鑑賞者は美術史家の分類や批判的な立場を採用する。作品を制作年、場所、流派、由来を得ることで満足する。さらに図書館で資料や図版求め、それらの事実によって作品を解き明かそうとする。美術作品は適切に分類され、作品の意味やメッセージは合理的で説明できると信じている。



#### 第4段階「解釈の段階」(Interpretive Stage)

- 鑑賞者は美術作品に個人的な出会いを求める。作品について探究し、その意味をゆっくり解き明かそうとし、作品の線、形、色などの繊細さを高く評価する。鑑賞者は感情と直観にさらに批判的スキルを用い、象徴するものに作品の根本的な意味を見いだす。美術作品とのさらなる出会いは、それぞれに新しい比較、洞察力、経験の機会を与える。芸術作品の作風や価値が再解釈の対象であることを知り、その機会と変化の過程を理解する。

#### 第5段階「再創造の段階」(Re-creative Stage)

- 鑑賞者は美術を観賞し、作品について考え、わからないことに喜びをもって解き明かす。見慣れた絵画は親しみのある旧友のようだが、未だ驚きに満ち、常に気を引くに値するばかりか上昇する平面である。すべての重要な友情の中で時間は鍵になる要素であり、ここでの鑑賞者は、その時代、歴史、質問、旅行、複雑さといった作品の様態を知ることができるようになる。作品の歴史と一般的な見解を引いてくることで、鑑賞者は個人の考えと広く普遍的概念を包含する見解を組み合わせる。個人的なものや普遍的なものを複雑に組み合わせながら、記憶は絵画の風景に注ぎ込むのである。



# 作品選択

- VTSの画像／作品は、フィリップ・ヤノウィンによると初心者が興味を持ちやすく、内容発見がしやすいものがよい。
- 画像を個人で選択する場合に考慮すること。
  - 1) 分かりやすさ (Accessibility) — 内容が発見しやすいもの
  - 2) 表現的内容 (Expressive Content) — 解釈がいくとおりにもできるもの
  - 3) 物語性 (Narrative) — 想像によって物語が作りやすいもの
  - 4) 多様性 (Diversity) — 時代、文化を広くカバーしたもの
  - 5) 写実性 (Realism) — 抽象的なものは避けること
  - 6) シリーズ・テーマ (Series/Themes) — テーマ等の共通するものが連続して紹介する3点にあること
  - 7) 素材 (Media) — 作品素材 (絵画、描画、版画、写真、彫刻等) を広くカバーすること
  - 8) ジャンル (Artistic Genre) — 工芸、美術等のジャンルを広くカバーすること
  - 9) 著名作家と作品 (Key Artists and Works) — 時代を代表する作家とその作品
  - 10) 連続性 (Sequences) — 3点のスライドは内容が単純なものから複雑なものへと連続性を持たせること

## 対話型鑑賞法 (VISUAL THINKING STRATEGIES)

### オープンエンドの質問

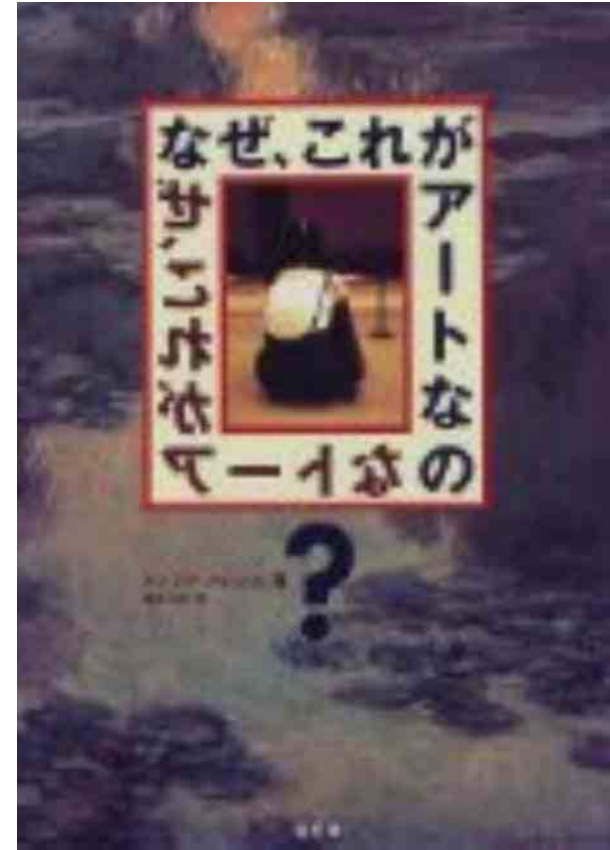
- 「この像（絵）で何が起きているのですか？」 (What is going on in this image?)
- 「あなたがそう言っているのは、何を見てそう言っているのですか？」  
(What do you see that makes you say that?)
- 「さらに何か見つけることができますか」 (What more can you find?)



アメリア・アレナス  
Amelia Arenas

1956年ベネズエラ生まれ。  
84～96年ニューヨーク近代美術館教育部の講師として活動。同館が、ニューヨーク市の公立小学校の教師75名と児童約3,500名を対象に、5年の歳月をかけて体系化した「視覚を用いて考えるためのカリキュラム（VTC）」の制作に参加した。

日本の教師のための美術作品鑑賞のための教材『MITE』を開発。



「Mite!」  
美術を専科としない教師も  
鑑賞指導ができるとしたもの

「思考と言葉で表現する力を育てる」

## アメリカ・アレナス式の対話型作品鑑賞

この絵をじっと見ましょう。

じっくり考えましょう。心に浮かんだことを全部考えましょう。

この絵にいったい何か起こっていますか？

自然な心の動きを促す。

何を見てそう思ったの？

手がかりを絵の中に発見させる。

他に何か見えますか？

(具体的なものをさして) 見えますか？

どうしてそうおもったの？

それはどういう意味？

考えを深め、議論を高め、思いもよらない考えを引き出す。

他の人の意見を聞いてみましょう。

「はい」「いいえ」の答えになる質問は避ける。技法や作者の意図を尋ねるのは避ける。いろいろな意見ができた一旦まとめる。出た意見を言いかえる。異なる意見に関連性をもたせる。時には主旨にそったコメントをいう。相手の言葉に注意深く耳を傾け、理解しようとする。そして自分の個性と経験に適したやり方をする。

ミュージアム・エデュケーター  
アルディナ・グレコ      Ardina Greco

- コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ
- ニューヨーク近代美術館
- グッゲンハイム美術館
- イサム・ノグチ美術館



他のエデュケーターと同様に  
VTSだけでなく独自の方法を展開させている。

“Museum education Issue I”  
“Museum as research”











# MoMA認知症・アルツハイマーのプログラム

- “meetme”ニューヨーク近代美術館MoMAアルツハイマープロジェクト：アートと認知症の人々との出会い
- <http://www.moma.org/meetme/index>
- アートとかかわることは重要な自己表現である：見ること、ディスカッションすること、制作すること
- アートやアーティストについてのアイデアを探索し、交換する
- 知的な刺激を経験する
- 個人のことと一般の世界に繋がりをもつ
- 個人の経験と長い間の記憶に近づく
- 個人の成長を促進する意味のある活動に参加する

# 作品を前にして

## In Front of a Work of Art

- よく見る (Observation.)
- 話す (Description) : 線、形、色彩、構図、材料、技術、主題＝話された全ての要素をまとめ、見落とされた重要な点を指摘する
- 説明する (Interpretation) : 時と場所、物語、雰囲気と心理的効果、作家の意図、アーティストの略歴、歴史的・社会的文脈＝はっきりとは視覚化されていないがおそらく示唆されているものについて尋ねる
- 繋ぐ (Connection) : 個人の経験、心理的・感情的効果、個人的意見、文化の変化と世界の出来事、他の美術作品と美術の歴史的規範＝人生経験と作品を結びつける
- 小グループの会話 (Small-Group Conversation) : 個が共有する＝4名か6名のグループでよく見ることからまた始める。作品に関する特定のアイデア、テーマで話し合う。参加者の認知能力に適切であること。話し合いは10分以上は行なわない。全体で会話を共有するように促す
- まとめ (Summary) : 今まで触れてきたことを総合し、まとめる。参加者に感謝し、最終コメントをする。